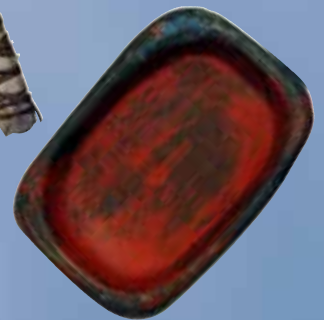


# 旅する版画: イヌイットの版画のはじまりと日本 教育プログラムとアクティビティの提案



解釈・講習・普及  
2010年9月



MUSÉE CANADIEN DES CIVILISATIONS  
CANADIAN MUSEUM OF CIVILIZATION

Canada

# 旅する版画: イヌイットの版画のはじまりと日本

## 教育プログラムとアクティビティの提案

### はじめに

本教育プログラムキットは、展覧会の一環として行えるアクティビティをご紹介します。以下に、来場者のみでできるアクティビティ、会場スタッフやボランティアスタッフがリードして行うアクティビティ、そしてこれらのアクティビティに役立つヒントをご紹介します。

### イヌイット文化の紹介

#### イヌイットとは？

「イヌイット」とは「人々」を意味し、元来、イヌイットの人々が自らをそう呼んでいました。また、「イヌイット」の単数系は、「イヌック」です。

「エスキモー」という呼び名の語源ははっきりしませんが、それが外来語であり、初期のアルゴンキン語族から発生したであろうことはわかっています。「エスキモー」という名称は、1970年代に「イヌイット」という名称に正式に変えられてから、カナダでは使われていません。しかしながら、「エスキモー語」という言葉は、北方のグリーンランド、カナダ、アラスカ、シベリアの人々言語の広義の語族として、民族学者の間では未だに使われています。カナダでは、イヌイット語でイヌイット語のことを「イヌクティトゥット」といい、「人々のような」という意味を持ちます。

イヌイットの人々、又イヌイットに関係する民族は、グリーンランド、カナダ北部、アラスカ、シベリアのチュクチを含む北極周辺の大部分に住んでいます。この地方は、世界で最も厳しい生活環境として知られています。しかし、イヌイットの人々にとっては、そこは「ヌナツィアク」（美しい土地）です。

歴史的には、イヌイットの人々は海と山の哺乳類を狩猟する半遊牧民でした。彼らは集団で生活し、北極の豊かな動物資源のあとを追い、そして集団内外で交易を行いながら海と陸を季節ごとに移動しました。現在、約5万人のイヌイットの多くは、ノースウェスト準州、ヌナブト準州、ケベック北部（ヌナビク）、ラブラドルなどに点在する居留地内や、その周辺で生活しています。このような半永久的定住は、政府が教育の機会を増やし、医療制度やその他の公共サービスを整えた1950年代後半に始まりました。又、ここ最近15年以上、イヌイットの人々はモントリオール、オタワ、トロント、ウィニペグなどのカナダ南部の主要都市に移り住んでいます。これらのイヌイットの人々は、イヌクティトゥットを話し、イヌイットの価値観で子供を育てます。

一方で、カナダの社会はこれまでに多大な文化的、経済的、政治的な影響をイヌイットの人々に及ぼしてきました。その影響のもと、イヌイットの人たちは、政治的、経済的な組織の編成をするようになりました。イヌイット・タピリット・カナタミとヌナブトのトゥングヴィク連盟は、カナダ政府との交渉に成功し、イヌイットのホームランドを建設し、「ヌナブト」（文字通り「私たちの土地」という意味をもつ）と名付けました。地方レベルでは、イヌイットの生活共同組合設立運動により、より多くの経済的自治権を確立しました。

色々な意味で、イヌイットコミュニティに持ち込まれたテクノロジーはイヌイットの人々の生活の手助けとなっています。イヌクティット音節表記システム、イヌイット・ブロードキャスティング・コーポレーションを通じた地元のラジオやテレビ番組は、イヌイットの人々間のコミュニケーションを促しています。飛行機、スノーモービル、暖房、コンピューターなどはすべてイヌイットの北極の生活に取り入れられています。

イヌイットの生活として特記すべきは、自然との関係です。イヌイットの人々の最近の生活の変化に関わらず、狩猟、わな猟、釣りは今でも生活の中で大切な位置を占め、それらはよく彼らの美術の中にも描かれています。大勢のイヌイットの人々は、土地との結びつきが、自分たちの文化及び他とは異なる民族としての生き残りに不可欠であると考えています。

今日でも、イヌイットの文化と価値観は家、土地、またコミュニティ内のイベントや生活共同体設立運動における彼らの生活の中で大きな役割を担っています。詳しくは、以下の資料をご参考ください。

- Canadian Inuit History: A Thousand-Year Odyssey.  
(カナダ・イヌイットの歴史：1000年のオデュッセイ)  
<http://www.civilization.ca/cmc/education/teacher-resources/oracles/first-peoples/dmorrison/canadian-inuit-history>  
<http://www.civilization.ca/cmc/education/teacher-resources/oracles/first-peoples/dmorrison/canadian-inuit-history2>  
<http://www.civilization.ca/cmc/education/teacher-resources/oracles/first-peoples/dmorrison/canadian-inuit-history3>
- Iqqaipaa: Celebrating Inuit Art.  
(イカーイパー・イヌイット美術を祝う)  
[www.civilization.ca/cmc/exhibitions/aborig/iqqaipaa/home-e.shtml](http://www.civilization.ca/cmc/exhibitions/aborig/iqqaipaa/home-e.shtml)
- Morrison, David and Georges-Hébert Germain. Inuit: Glimpses of an Arctic Past. Hull, Quebec: Canadian Museum of Civilization, 1995.  
(デビッド・モリソン、ジョルジュ＝エベール・ジェルマン 著 「イヌイット：北極の過去を覗く」カナダ文明博物館 1995年)

## アクティビティ1：来場者が個人で行えるもの

### 自分の名前をイヌクティウトットでかいてみよう！

このアクティビティでは、来場者が自分の名前をどのようにイヌクティウトット（イヌイットの言語）で書くのかを学びます。来場者はこのアクティビティを通じて、イヌクティウトットの音節表記を学びます。イヌイットアーティストがどのような音声表記を使って美術品に署名したか、また、アーティストがどのように署名を作品の認証として使用したかについて理解します。

### 展覧会の一部として

- ・どのようにイヌイットのアーティストたちが音節表記をつかって作品に署名したのか学びます。
- ・付属の音節表記の資料を参考に、アーティストの名前を「解読」できます。

### 学習の成果として

- ・来場者はイヌイットの言語について触れ、どのように音節表記がなされるのかを理解します。

### アクティビティの概要

- ・アクティビティは、展覧会内の作品が見える場所で行うのが理想です。
- ・このアクティビティのために、来場者が自分の名前をイヌクティウトットで書くためのテーブルが必要です。
- ・アクティビティのインストラクションは、紙面に印刷し、テーブルの上におくか、またはボードなどに貼ります。
- ・自分の名前をイヌクティウトットで書き、展示したい人のために、ボードを用意するといいでしょう。

### 必要なもの

#### セットアップに必要なもの

- ・テーブルといす
- ・テーブル上を整理する時に便利な入れ物

#### アクティビティに使用するもの

- ・イヌクティウトット音節表記を写すための紙
- ・紙
- ・鉛筆
- ・消しゴム

### 準備

- ・テーブルの上に、上記のものを置きます。鉛筆や紙を別々に入れ物にいれておくと、テーブルの上をきれいに保てます。
- ・数人の来場者が同時にアクティビティを行えるように、大きなテーブルを用意するのが理想です。
- ・付録1はイヌクティウトットの音節表記システムを記しています。テーブルにおいてください。
- ・付録2はイヌイットの美術品に記されたアーティストの署名のコピーです。

## その他

### どのようにイヌイットのアーティストたちが作品に署名したか

アーティストは大抵、作品の題名、自分の名前、使用した技術の名前、そして作品制作の日時と場所を鉛筆で書きます。イヌイットのアーティストたちは、音節表記を使い、自分の名前を作品の右下に書き入れます。ドーム型の家のような、「U」を逆さまにしたような形が、イヌイットアーティストの署名の下にあります。これはアーティストの工房を表しています。たいていは赤で印刷されます。付録2では、カナダ、ヌナブト準州にあるケープドーセットのウェスト・パフィン・エスキモー・コーポレラティブが工房です。他の工房は、別のシンボルを持っています。アーティストの署名の後に、印刷者も黒字で署名をします。

### 口承文化

イヌイットの人々は、19世紀の後半に宣教師たちが北極に来るまで、文字を書くことをしませんでした。イヌイットの歴史や知識は、伝説や物語を通じて口承で次の世代へと伝えられ、それらの語りは長く暗い北極の昼夜に娯楽としても機能していました。現在では、イヌイットの若い世代の人々は英語を書き、話し、読みます。しかし、今でも書くことより話すことのほうが好まれます。

### 言語システムについて

イヌイットの言語は、語幹により作られ、接頭語や接尾語を加えることにより、物事をより詳細に表現します（接頭語は語幹の前、または接尾語は語幹の後につけられます）。そのため、イヌクティトゥットでは1語の言葉が、英語やフランス語での1節に値することもあります。

例えば、「イヌクティトゥット」(Inuktitut)とは、語幹で「人」という意味をもつ「イヌック」(Inuk)と、「このような方法で」という意味を表す「テトゥット」(titut)という語で成り立っています。言語は、私たちに彼らの文化や価値観について知るヒントを与えてくれます。イヌクティトゥットは、言語そのものを表すだけでなく、「人々のあり方」という意味をもちます。イヌイット独自の(イヌクティトゥットな)寝方、踊り方、食べ方、笑い方があるとも言われています。又、イヌイットの人々の生活は彼らの土地と強く密着しています。このことは、彼らが自然世界を表現する豊富な語彙からもわかります。例えば、イヌクティトゥットには「雪」を表現する言葉がたくさんあります。それらは、雪の状態を細かく記すことができるようになっています。

### どのように、いつ、イヌクティトゥット文語システムが発展したか

イヌクティトゥット文語システムは、1850年頃宣教師が開発した音節表記システムが発展したものです。この表記システムは、音節とよばれるシンボルを基本としています。速記者が使う表記システムをモデルとしており、それぞれのシンボルが違う音(音節)を表します。

1960年頃になると、もう一つの文語システムがイヌイットの学校に導入されました。このシステムは「ローマン・オーソグラフィ」(ローマ字つづり)とよばれ、英語とフランス語のアルファベットでイヌクティトゥットの発音を記したものです。このタイプの文語システムは北極の西の方で使われ、音節表記は北極の中央・東部で使われています。

下記がローマン・オーソグラフィーと音節表記の例です。

Asujutidli	◁ℓℓℓℓ	こんにちは
Uvanga	▷ㇿし	私の名前は...
Tavvauvutit	ㇿㇿ▷ㇿℓ	さようなら
Qujannamiik	ㇿdㇿㇿℓ	ありがとう
li	△	はい
Aagaa/aakka	◁ℓ/◁ℓbb	いいえ
Iglu	△ℓ	イグルー(ドーム型住居)
Tuktu	ㇿㇿ	トナカイ
Nattiq	ㇿℓㇿ	アザラシ
Qajaq	ㇿbㇿ	カヤック
Qimmiq	ㇿℓℓ	オオカミ
Nanuq	ㇿㇿ	北極グマ

## アクティビティ2：スタッフと共に行うもの (約30分)

### 自分の印章(シール)を作ってみよう!

このアクティビティは、イヌイット版画がどのように印章で署名されているかを来場者に紹介します。イヌイット版画の印章は日本の版画の影響を受けています。

### 展覧会の一部として

- ・この展覧会は、イヌイット版画制作におけるジェームズ・ヒューストンの影響、特に白人アーティストであるヒューストンの日本の版画アーティスト平塚運一と、日本版画の伝統との出会いを追求します。この影響はイヌイットのアーティストが作品が本物であることを証明するために使う印章に見てとれます。

### 学習の成果として

- ・来場者はイヌイットと日本の版画の接点を見いだします。
- ・来場者は版画制作の基本的な流れを学びます。
- ・来場者はイヌイットと日本のアーティストがどのように自分たちの作品に署名したのかを知ることが出来ます。

### アクティビティの概要

- ・参加者が展覧会内の版画作品の署名を鑑賞するところからアクティビティを始めましょう。参加者が多い場合、小さなグループをつくりましょう。
- ・参加者に、イヌイットと日本の版画に見られる署名の共通点を自分たちで見つけてもらいましょう。
- ・イヌイットのアーティストたちの署名を表示した付録2を見ながら、アーティストの名前を記した音節表記と、工房を記したシンボルの区別をしましょう。
- ・付録1の音節システム表をつかって、イヌイット人の表記の仕方を教え、どのようにイヌイットの人がこのシステムを使うようになったのかを説明しましょう。

### ワークショップ

- ・来場者が署名の表記の仕方を理解したら、自分たちの印章をつくるように勧めましょう。参加者は自分の名前をイヌイット人の音節記号を使って書いてもよいですし、自分の家族やその他所属するグループの印章を作ってもよいでしょう。

### 必要なもの

#### セットアップに必要なもの

- ・テーブルといす
- ・テーブル上を整理する時に便利な入れ物

#### アクティビティに必要なもの

- ・参加者1人につきじゃがいも1つ。または良質の消しゴムでも構いません。
- ・水性のペイントかアクリルペイント(必要ならば墨)
- ・スポンジ
- ・白い紙/カラー紙、下書き用の紙
- ・皮むき用ナイフ、またはカッターナイフ。子供にはキッチンナイフが良いでしょう。
- ・スケッチ用の紙
- ・鉛筆、消しゴム

## 準備

- ・テーブルクロスなど汚れを防ぐもので覆われたテーブルに上記のアクティビティに必要なものを置きましょう。
- ・数人の来場者が同時にアクティビティを行えるように、大きなテーブルを用意するのが理想です。

## ワークショップ概要

- ・参加者に自分の印章のデザインを考え、紙に書いてもらいましょう。
- ・じゃがいもを2つに切りましょう。じゃがいもは事前に洗っておき、汚れをとっておきましょう。
- ・ナイフを使って、参加者はじゃがいもの半分に自分のイニシャル等を彫りましょう。スポンジでじゃがいもにペイントを塗り、紙の上にじゃがいもを押し付けましょう。

## その他

### 印章

印章は、書類や作品を認証するものです。印章を作り出す道具自体も印章(シール)と呼ばれます。

### イヌイットアート印章

イヌイットのアーティスト達は、自分たちの作品が本当に自分たちの作った物であることを証明するために、作品完成後、印章をつけます。これは日本の版画伝統の影響です。

### 日本における印章の使用

日本では、印章は判子と呼ばれ、個人や企業によって認証のため様々なタイプの正式書類、印刷物や私的また行政上の通信の中で使われています。日本での、現在確認できる最古の判子使用は西暦57年です。それは、金の大きな判子で、君主が所有するものでした。元来、判子とは君主とその側近しか所有しておらず、君主の権力のシンボルとされていました。しかし、西暦750年以降は、君主以外の権力者の間でも、判子が使用されるようになり、中世になると侍が判子を再び使用するようになりました。現在でも、日本の人々は、自分たちの判子を登録し、正式な場で使用しています。

印章は、グラフィックアーティストにとっては、自分の作品をデザインし、又、署名できる手段でもあります。これは何世紀にもわたって行われてきた伝統です。署名は、アーティストの名か、苗字です。アーティストによっては、スローガンのような一節を使う人もいます。印章はどんな形(縦長、丸、四角)、素材(木、石、バッファローの角)、サイズ、デザインでも構いません。

この展覧会で展示される日本の版画は、署名として判子を使ったよい例です。



## アクティビティ3：スタッフとともに行うもの (約60分)

### 自分の版画・ステンシルを作ってみよう！

このアクティビティでは、来場者に版画・ステンシルの2つの印刷技術の基礎をご紹介します。本展覧会のアーティストはこれら2つの印刷技術を使用しています。

### 展覧会の一部として

- ・この展覧会では、現在でもカナダ北部で制作されている、イヌイットの版画の歴史をご紹介します。
- ・このアクティビティを通じて、版画とステンシルの基本を学びます。

### 学習の成果として

- ・来場者は版画とステンシルの技術についての知識を得ます。

## アクティビティの概要

### ディスカッション

- ・参加者が、展覧会内の作品を鑑賞（特に版画とステンシルの比較）するところからアクティビティを始めましょう。参加者が多い場合、小さなグループを作りましょう。
- ・参加者は、2つの技術（版画とステンシル）の共通点、違いを自分たちで考えてみましょう。
- ・参加者は、どの作品が好きか、その作品の何が好きなのかを話し合ってみましょう。
- ・自分の興味あるテーマ、活動、記憶について考え、自分がどのような作品をつくるか伝えましょう。

### ワークショップ概要

- ・来場者が2つの印刷技術について理解したら、自分の作品を作るように勧めましょう。参加者は、リノリウム版かステンシルのどちらかを選べます。どちらの技術についても丁寧に教え、又、それぞれの技術を使った作品の見本を用意するといいでしょう。

## 必要なもの

### セットアップに必要なもの

- ・テーブルといす
- ・テーブル上を整理する時に便利な入れ物

### リノリウム版画に必要なもの

- ・既成のリノリウム版
- ・もし参加者が自分で版を彫るようであれば、5-6cm四方の小さなリノリウム版とそれを彫るのに必要なナイフなど。発泡スチロール版でも子供の参加者にはいいでしょう。
- ・水性インク（液体のテンペラなど）
- ・柔らかいゴムのローラー
- ・木製かプラスチック製の入れ物（インクをローラーに塗るときに使うもの）
- ・厚紙
- ・画用紙
- ・鉛筆かペン（作者の名前を書くもの）
- ・ラックまたは洗濯ひもと洗濯ばさみ（版画を乾燥させるためのもの）
- ・輪ゴム（版画を巻いて筒状にして持ち運ぶため）

### ステンシルに必要なもの

- ・既成のステンシルテンプレート
- ・水で薄めたテンペラをつけたブラシ(先は点状)、ペン、スポンジなど
- ・テンペラ
- ・画用紙
- ・厚紙
- ・水を入れた容器と、ブラシやステンシルについた水を拭き取るための布
- ・クリップ(ステンシルを紙に付けるためのもの)
- ・鉛筆かペン(作者の名前を書くもの)
- ・ラックまたは洗濯ひもと洗濯ばさみ(版画を乾燥させるためのもの)
- ・輪ゴム(版画を巻いて筒状にして持ち運ぶため)

### 準備

- ・見本
- ・先が太く、インクが入っていないペンを用意し、水で薄めたテンペラを塗ります。
- ・画用紙をステンシルが入る程の大きさに切ります。
- ・厚紙を用意します(作品を貼って飾るためのもの)
- ・必要なものを揃えて、ワークステーション(作業場)をセットアップしましょう。

### その他

石版画と木版画とステンシルは非常に人気のある現代の版画技術です。両技術共に、手作業で行われ、最低限の材料と技術トレーニングでできます。石版画は木版画から発展したレリーフ(浮き彫り)で、版の表面の切り口を変えることにより、独特で興味深い質感を生み出すことができます。

ステンシルは、基本的に型染めです。画は、先が点状になったブラシとステンシルのテンプレートを使うことにより、インクが直接塗られることにより作られます。色の違いは、インクの濃淡を変えることによって生み出されます。ステンシルは、はじめはアザラシの皮を固くしたもので作られていましたが、現在では厚紙が使われています。

## 参考資料・文献

### 本

- ・ Blodgett, Jean. In Cape Dorset we do it this way: three decades of Inuit printmaking With essays by Heather Ardies, Leslie Boyd and Linda Sutherland. Kleinburg, Ontario: McMichael Canadian Art Collection, c1991. (ジーン・プロゲット 著 「ケープドーセットではこうする：イヌイット版画制作の30年 ヘザー・アーディーズ、レスリー・ボイド、リンダ・スザーランドによるエッセーを含む」 オンタリオ・クラインバーグ マックミツェル・カナディアン・アートコレクション出版 1991年頃)
- ・ Boyd Ryan, Leslie. Cape Dorset Prints, A Retrospective: Fifty Years of Printmaking at the Kinngait Studios. San Francisco, California: Pomegranate, 2007. (レスリー・ボイド・ライアン著 「ケープドーセット版画 回顧：キンガイトスタジオでの版画制作の50年」カリフォルニア・サンフランシスコ ポメグラネト出版社 2007年)
- ・ Hessel, Ingo. Inuit art: an introduction. Vancouver, British Columbia: Douglas & McIntyre, 1998. (インゴ・ヘッセル イヌイットアート：イントロダクション) プリティッシュ・コロンビア バンクーバー ダグラスアンドマッキンタイアー出版 1998年)
- ・ LaBarge, Dorothy. From drawing to print: perception and process in Cape Dorset art. Calgary, Alberta: Glenbow Museum, 1986. (ドロシー・ラバージ著 「線画から版画へ：ケープドーセット美術の受容と経過」 アルバータ・カルガリー グレンボウ美術館出版 1896年)
- ・ Leroux, Odette, Marion Jackson and Minnie Aoudla Freeman. Inuit Women Artists. Gatineau, Quebec: Canadian Museum of Civilization, 1994. (Published in the United States through the University of Washington Press.) (オデー・レロー、マリオン・ジャクソン、ミニー・オードラ・フリーマン著 「イヌイット女性アーティスト」 ケベック・ガティノー カナダ文明博物館出版 1994年 アメリカではワシントン大学出版社出版)

### Websites

- ・ イヌクティウトットの語彙集は以下のウェブサイトからご覧頂けます。  
<http://www.livingdictionary.com/main.jsp>
- ・ Kids' Stop は先住民の人々の言語の歴史について、子供向けの説明を掲載しています。(カナダインディアン北方省サイト)  
<http://www.ainc-inac.gc.ca/ach/lr/ks/index-eng.asp>

## 付録1

### イヌクティトゥット音節表記

△	イ	▽	ウ	▽	ア
∧	ピ	∨	プ	∨	パ
∩	ティ	∪	トゥ	∪	タ
ρ	キ	δ	ク	β	カ
ρ	ギ	∩	グ	∩	ガ
└	ミ	└	ム	└	マ
ρ	ニ	β	ヌ	ρ	ナ
ρ	シ	ρ	ス	ρ	サ
ρ	リ	∩	ル	∩	ラ
ρ	ジ	∩	ジュ	ρ	ジャ
△	ヴィ	ρ	ヴ	ρ	ヴァ
ρ	リ	ρ	ル	ρ	ラ
ρ	キ	δ	ク	β	カ
ρ	ンギ	∩	ング	ρ	ンガ
ρ	ティ	∩	トゥ	∩	タ

## 付録2

### イヌイット作品署名の例

アーティスト：ルーシー・シヌアジャック

題名：フクロウとその仲間

制作年：1961年

技術：石版画

印刷：ルッカ・キアツク



ルーシー・キヌアジャック(ルーシーとだけ音節表記で記されています)  
ルッカ・シアツク(表記では「ルタ」となっています)  
ウェスト・バフィン・エスキモー・コーポラティブ



© ウェスト・バフィン・エスキモー・コーポラティブ